プラン・ニュース［2016 Summer］NO.102

# PLAN NEWS

新団体名でスタート!

プラン・インターナショナルCEO

## アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセンからのご挨拶

Girl's Project/ プラン一般プロジェクト

## 新規プロジェクトが一斉にスタート

プランのコミュニティ開発

## バングラデシュ ガジプール活動地域の軌跡

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

キーパーソンに聞く

# アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン

●プラン・インターナショナル 最高経営責任者（CEO）

## 支援をグローバルなムーブメントに。女の子への支援に、より力を入れていきます

2016年7月から、全世界でプラン・インターナショナルという統一名称を採用することになりました。これにあわせて、国際機関などで途上国の人道支援のキャリアを積み、昨年プラン・インターナショナルのCEOに就任したアンネ・ビルギッテ・アルブレクトセンに、今後プランが果たすべき役割や展望を聞きました。

**――まずは、CEOとして、プランの今のビジョンを教えてください。**

**アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン**（以下、アンネ）

プランは、すべての子どもたちの権利を推進すること、そして女の子を暴力や差別から守ることを目的に活動を続けてきました。このゴールに変わりはなく、積極的に活動を続けていきたいと考えています。具体的には、もっと多くの子どもを支援するため、70カ国以上に及ぶ私たちのネットワークを活用したいです。また、支援くださる方に対して、より透明性がありオープンな団体でありたいとも思っています。

**――国際機関でキャリアを積みました。UN（国連）とNGOで働くことの大きな違いは何ですか？**

**アンネ** NGOの方が世界の変化にスピーディに対応できる、というのがいちばんの違いだと思います。国際機関は、政府間の交渉や調整に手間取り、物ごとが動かないことがありました。

**――よりよい世界を実現するため、NGOが今、そして未来に果たすべき役割は何だと考えますか？**

**アンネ** 支援の中心にあるのはあくまでも〝人〟であり、彼らをエンパワーメントして主体的に問題解決をできるようにすることがNGO、そしてプランのいちばんの役割だと考えています。

そのために大切なのは、ひとつひとつの支援をグローバルなムーブメントにすること。たとえば、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンも、世界中の女の子をつなぐアプローチを取ることでもっと世界に広まっていくと思います。さらに、パートナーシップも欠かせません。最近、コンサルティングのプロフェッショナルであるKPMGや女性の健康と権利を支援するWomen Deliverといった組織とグローバルなパートナーシップを組むことができるようになったのは、非常にエキサイティングなことです。

**――プランの強みは何だと思いますか？**

**アンネ** 1937年から、長期にわたり子どもたちを支援し彼らの権利を守ってきたこと。そして今や、50カ国以上に活動が広がっていること。長い歴史と活動範囲の広さによって培われた経験が、私たちの何よりの強さだと考えています。CEOとして、この財産を最大限活用したいですね。

さらに、2012年から始めたBIAAGキャンペーンも、私たちの強みです。早すぎる結婚や女性というだけで差別を受けるなど、途上国の女の子が抱える問題を解決する500以上のプロジェクトを通して、私たちは500万人もの女の子を支援してきました。プランは、女の子への支援という分野で影響力のある地位を確立したと思います。

**――最後に、日本の支援者へ、メッセージをお願いします。**

**アンネ** 私たちは途上国の子どもやコミュニティが自立することを目指し、約80年活動を続けてきました。また、昨年は世界の8万5000のコミュニティーで、教師や保健員への研修、災害教育、子どもの保護のトレーニングなどを行いました。これは、支援者の皆さまの力がなかったら決して成し遂げられなかったことです。心から感謝を申し上げます。

世界でもっとも軽んじられ、疎外されている女の子たちを支えるために、この先も私たちは重要な役割を果たしていきます。これは、支援者の方の絶え間ない寄付があるからこそ、実現できるのです。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いします。

CEO 就任後の視察先のひとつであるジンバブエで

Profile

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン
コペンハーゲン大学で法律を専攻。国連人口基金の事務局次長を務めるなど、開発、人権、外交、組織改革などに従事。2015 年 9 月よりプラン・インターナショナルの CEO に就任。現在はプランの本部があるイギリス在住。5人の娘の母。

### 「プラン・インターナショナル」になります！

2016 年 7 月 1 日より、「プラン・ジャパン」は正式団体名を「公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン」に変更いたしました。世界 70 カ国以上で活動する国際 NGO としての一体性を強化し、より効果的で力強い活動を可能にするという思いが込められています。新たな統一名称のもと、今後もより一層子どもの権利を推進し、貧困や暴力のない公正な社会に向けて活動して参ります。引き続き、みなさまのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※寄付にかかわる事務手続き上の変更につきましては、同封の案内書をご覧下さい

ロゴマークも一新されました！

# 女の子や女性に不利な法律・慣習法がさらなる格差を生む。負の連鎖を断ち切るのは教育の力です

困難な状況にある女の子の自立を助けるBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーン。今回からは、プランが取り組む問題をひとつひとつ解説します。第1回は、女の子と女性の権利の問題を取り上げます。

**女性性器切除（FGC）を実施している国の数。**※1

**30**

アフリカと中東に集中していますが、実際には西ヨーロッパや北米などの移民集団でも存続。この30カ国の多くは、FGCを法律で禁止しています。

**ジェンダー平等を保障する憲法を定める国の数。**※2

**139**

男女平等が法律で定められていても女性や女の子に対する虐待、暴力はなくならず、また慣習から女性の相続権を認めない国も多く存在します。

## 女の子と女性を取り巻く複数の法制度

ジェンダー平等に関する国際的な枠組みによって、過去数十年の間に、多くの国で重要な法改正が行われました。今ではジェンダー平等を保障する憲法は、139カ国に存在します。

けれども、法律が定められていても、女性や女の子に対する虐待、暴力がはびこっているのが現実です。法の執行力のなさが大きな壁となっています。

また、法制度は国によっても異なり、慣習法や宗教法といった非公式の司法制度が正式な法律よりも影響力を及ぼす国もあります。たとえば、マラウイでは80～90％の紛争は慣習法で、バングラデシュの60～70％の地域では、紛争はサリシュ（村の長老たちからなる紛争の仲裁委員会）を通じて処理されます。※3

慣習法は、資産の相続権を男女が平等に持つとはしないことが多く、慣習法に基づく社会では、相続権は「伝統」や「慣習法」で決まると考え、男系にのみ許されていると考えています。

※1：ユニセフ Female Genital Mutilation/Cutting:A Global Concern, 2016　※2：世界ガールズ白書 2014 年版　※3：UNDP　DoingJustice, 2006

**スミラ**さん（17歳）
**2人の子どもの母親で寡婦**

＊プランはスミラさんのような女性たちがよりよい人生の選択ができるよう、ライフスキル教育支援に取り組んでいます

### 財産権を持たない私は夫の死とともに人生が終わりました

「私は７年前に結婚しましたが、病気で夫を亡くしました。この地域には子どものいる女性を望む人はいません。いまの私には土地、家、家畜など何もありません。女性は何の財産権もないのです。結婚したとき、私は夫の法律上の財産になりましたが、今は婚家に拒否され、夫の家にも入れません。妻が亡くなっても男性は以前と変わらずに生活できますが、夫を亡くした女性はそこで人生が終わってしまうのです」

## ネパールの寡婦はほとんど価値がない存在

ネパールでは、女の子、とりわけ低いカーストの女性が未亡人になると、その価値はまったくなくなってしまいます。財産権を認められず、寡婦を結婚相手に望む男性がいないためです。ネパールの法律では、相続の対象者を寡婦とそれ以外の人とで区別はしていませんが（ただし市民権を有していることが相続の条件）、社会の仕組みや慣習が変わらない限り、生きていくすべも失ってしまうのです。

女の子の問題やニーズが地域社会や国に認知されていないため、世界には女の子への偏見を前提に作られた、女の子と女性にとって不利な法律や仕組みが数多く存在しています。これによりさらなる格差を生み、「女の子は男の子よりも価値がない」という偏見が定着するという、悪循環を作り出しています。

この悪循環を断つには、女の子自身はもちろん、男の子や保護者、地域の人々が女の子の法的権利を理解し、現実と法制度との隔たりに声を挙げ、訴えていくことが必要です。そのためにも教育は重要なのです。

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンで実施されるプロジェクトの報告です

# 困難な状況にある女の子を、明るい未来へ!! 新プロジェクトが決まりました

2016年の7月からスタートする新しいGirl's Projectは3つ。
参加する女の子やスタッフの声と活動計画をご紹介します。

サンダルを売り歩くエディスさん

いつか
自分のお店を
持ちたい！

参加者の
**エディスさん（20歳）**
**From トーゴ**

## 小商いしか生計を立てる方法がない地域。知識やノウハウを得て経済的自立を目指す

私は息子をひとりで育てながら、毎日サンダルを売り歩くことで、日々の糧を得ています。学校へは高校1年まで通いましたが、中途退学しました。私の村は貧しく、ほとんどの人が食べていくのがやっとです。自分たちで小商いを始めるしか選択肢がないのですが、資金や商売の知識が乏しいため、それもうまくいきません。朝は4時半に起き、家事をし、幼稚園の息子の世話をしながら、1日に午前と午後の2回、サンダル売りに出かけます。でも利益はほとんどありません。もっと商売のノウハウや知識を学ぶ機会が必要です。

このプロジェクトに参加することで、利益を上げる方法を学び、商売を成功させて、いつか自分の店を持ちたいと思っています。日本の皆さんのご支援に感謝しています。

## 3つの国で始まる新プロジェクトの中身は？

### ネパール
### 女性たちが安全に生活できる環境を「女性への暴力撲滅・保護プロジェクト」

性暴力被害件数が多いとされる西部ベリ県バルディヤ郡で、地域の女性と女の子を対象に実施。保護施設（1カ所）の建設と運営サポート、約150人の被害女性のカウンセリングと学業・生計向上支援、女性の人権擁護に関わる人々と行政レベルの協力体制強化などを行い、安全に生活できる環境作りと、ジェンダーに基づく暴力を社会からなくすことを目指します。

### トーゴ
### すべての女性たちに自立する力を「若年層の女性の経済的自立プロジェクト」

中央州ブリッタ県で、起業のための支度金の確保へ向けた村落貯蓄貸付グループの立ち上げと運営、石鹸作りなど商売のための技術指導や起業するためのトレーニング（会計処理、市場開拓など）を行います。また、ライフスキルの教育やカウンセリングなどを通して、若年層の男女4,000人（うち女性2,600人）の経済的自立を促進します。ライフスキル教育では、社会の中で生きていく力を養います。

### ルワンダ
### 女子生徒も安心して学べる学校へ「差別をなくすジェンダー教育プロジェクト」

ルワンダ南部州ニャルグル郡の3つの中学校で、ジェンダーに基づく暴力をなくすための意識啓発やトレーニングを実施します。女の子に配慮した学習環境の整備、”ボーイズ・フォー・チェンジ：変革のための男の子“クラブの立ち上げとトレーニング、就職や将来の不安に関する女の子のための相談・カウンセリング、周囲の大人たちの能力強化と意識啓発活動を予定しています。

暴力を受けた
女性、女の子の
サポートをします

地域での意識啓発活動に参加するサビータさん（中央）

ボランティアスタッフ
**サビータさん（41歳）From ネパール**

## 性暴力を受けても“悪いのは被害者“という社会。まずは実態を明らかにすることから

私は「女性人権擁護ボランティア」として、女性や女の子をジェンダーに基づく暴力から守るために日々活動しています。具体的には暴力の実態把握、被害者の保護や必要なサポート、行政や病院などの関係機関とのネットワーク作りなどです。

私がボランティアとして働くようになったきっかけは、教師をしていたとき、多くの女の子とその母親が被害を受けているのを知ったからです。地域では、性暴力の被害を口にすることはタブーで、ほとんどの場合、表面化しません。周囲に知れたとしても悪いのは被害者とされ、加害者は制裁を受けません。女性を守るための活動自体への反発も強く、私たちも身の危険を感じながら、活動しています。日本の皆さまのご支援でさまざまな活動ができることをとてもうれしく思っています。

児童労働プロジェクトに参加する子どもたちと（左から3人目）

## ネパールの保護施設（シェルター）を訪れて

リポーター：寺田聡子職員（プログラム部）

5月の下旬に、バンケ郡の中心部にある、本プロジェクトがモデルとするシェルターを視察しました。シェルターには現在9歳から25歳までの女の子と女性14人が暮らしています。インド国境から4～5kmと近く、人身売買の被害が深刻です。だまされたり、雇用主に売春を強制させられたり、薬を飲まされ意識をなくしたままインドに無理矢理連れて行かれた女性たち。

この施設には最低4カ月間滞在することができ、縫製の職業訓練や定期的な検診を受けることができます。庭には花が咲いていて、子ども用のブランコもありました。「辛いときに安心して過ごせる場所があったのが、いちばんうれしかった」と涙を流す女性の姿が印象に残りました。暴力の被害を受けた女性たちがひとりでも多く、必要なサポートを受けられるように、皆さまのご支援をよろしくお願いします。

被害を受けた女性たちが住むシェルター

## ご支援をお待ちしています！

Girl's Projectへのご支援は、継続／都度のどちらでもお申し込みいただけます。下記のBIAAGキャンペーンサイトからお手続きください。プロジェクトの進捗についてもウェブサイトでご報告しています。メールマガジンで更新情報をお届けしますので、ぜひご登録ください。

**http://www.plan-international.jp/girl/**

～バングラデシュ・ガジプールの場合～

# 就学前教育や保健衛生に力を入れ、すべての人が安全に暮らせる地域を目指す

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしているのかをリポート。ひとつの地域にさまざまなプロジェクトを同時に進行させ、多方面から地域が抱える問題にアプローチすることで、迅速かつ確実な改善を目指します。第一回目は、バングラデシュのガジプールの様子をお伝えします。

※プランの活動の成果は、映像でもご覧いただけます　http://www.youtube.com/user/planjapantv

### バングラデシュ・ガジプールはこんなところ

南アジアに位置するバングラデシュは、社会と経済面で著しい成長が見られる国。繁栄の一方で、いまだ人口の約半分が国際貧困ライン（1日1.25ドル未満）以下で暮らすなど、経済格差も懸念されています。首都ダッカから車で3時間ほどの場所にあるガジプールは、縫製などの工場が多く集まる、日系企業と馴染みの深い場所です。

輪になって遊ぶ子どもたちの微笑ましい姿は、世界共通。地域の大人たちに就学前の子どもたちのケア方法を伝えることで、持続可能なコミュニティ主体の教育向上を目指します

**3歳児の保育所＆5歳児の幼稚園等への登録 100%達成！**

## Project 1 乳幼児保育施設の設置と運営

バングラデシュでは、子どもたちの80%以上が何の準備もせずに小学校に入学。そのため、学校に上手く馴染めなかったり途中で進級を諦めてしまう子どもが多くいます。この状況を改善するため、プランは乳幼児保育施設を設置。5、6歳の就学前の子どもたちが小学校にスムーズに進学できるようサポートしています。さらに、0～5歳児の母親やコミュニティ住民を対象とし、子どもが暮らしやすい家庭環境作りを教えたり、初等教育の重要性を伝える機会を提供。その結果、子どもの就学率が上がるとともに、途中で学校を辞める子どもの数が飛躍的に下がりました。また、コミュニティの女性に乳幼児保育施設で働く機会を作ることは、女性のエンパワーメントおよび地域での女性の地位が向上するという効果につながりました。

プロジェクトでは、子どもたちが安心してのびのびと遊べる環境作りも指導。水鉄砲や砂遊びをする子どもたちは元気いっぱい！

**シュリプールコミュニティにおける初等教育の修了率 89%に向上**
（バングラデシュ国平均71%）

## Project 2 初等教育の質の向上に力を入れる

適切で質の高い初等教育は、子どもの未来を明るく切り開く力があります。しかし、バングラデシュのガジプールでは、授業についていけなかったり途中で学校を辞めてしまったりする子どもの数が多いという状況がありました。そのため、プランはシュリプールコミュニティにて、教育環境を向上するプロジェクトや教師を対象としたトレーニングを実施。よりよい学校運営についてアドバイスしたり、地域の住民に初等教育の重要性を伝えたり、また、子どもたちの学習サポートを行ったりしました。支援が行われた地域では、すべての子どもが初等教育を受け、きちんと学校を卒業するなど、目覚ましい効果が見られています。

学校に通い読み書きなどをきちんと学ぶことは、子どもたちの未来に大きな影響を与えます

**200件以上の早すぎる結婚を阻止**

## Project 3 子どもたちの早すぎる結婚を防ぐ

バングラデシュは、世界でも早すぎる結婚の割合が高い国。婚姻状態にある20～24歳の女性のうち、家族により嫁がされた年齢が15歳以下という人が32%、18歳以下が66%、うち28%が10代で出産し、学校に行くことができなくなるなど、教育を受ける機会を奪われています。プランは、早すぎる結婚の数を減らすため多くの啓発活動を実施。早すぎる結婚反対に手を挙げるアクションや、地方行政の関係者や宗教指導者などへの説明会、子どもたちに自らの権利を守る方法を教えるセッションなどを開催しました。結果的には、活動地域となったシュリプールコミュニティで200件もの早すぎる結婚を阻止するなど、多くの人々が法的な婚姻年齢を認識するようになりました。

早すぎる結婚によっていちばん被害を受けるのは、学校に行く機会を奪われたり早すぎる出産で命の危険に直面したりする女の子たち。この問題に立ち向かうには、女の子や女性だけでなく、男性も意識改革をすることが求められています

**コミュニティの各家庭に、衛生的なトイレを 100%設置！**
（バングラデシュ国平均50%）

## Project 4 清潔な水へアクセスできるようにする

この地域では、多くの人々は家にトイレがなく近くの森林で排泄し、不衛生な環境で暮らしていました。そのため、下痢や赤痢など水や虫が媒介する病気にかかる住民が後を絶たず、それを原因に学校に通えない子どもたちが多くいました。こうした現状に対処するため、プランは極めて貧しい家庭を対象に水と衛生プロジェクトを実施。安全な水と衛生施設を確保するために、掘り抜き井戸やトイレの建設を支援しました。また、ハード面に加え、衛生教育などソフト面でのサポートも積極的に行いました。その結果、住民たちは以前より健康的な生活を送るようになり、感染症による病気も少なくなりました。

衛生的なトイレができたことで、感染症による病気が減少。学校に通える子どもの数が増えました

シュリプールコミュニティには掘り抜き井戸100基が設置され、3,000人の住民が安全な飲料水を利用できるようになりました


※地域の持続可能な開発を多面的に支援するプラン・スポンサーシップ。詳細についてとお申し込みはこちらまで：http://www.plan-international.jp/join/sponsor/

プラン・マンスリー・サポーター、プラン一般プロジェクト、緊急支援などの取り組み

# 子どもたちが未来に希望を持てるように！

新たなプロジェクトを加えて、世界各地でプランが取り組むプロジェクトが展開しています。

## プラン・マンスリー・サポーター

### シリア難民の子どもたちに教育と衛生的な環境を！＊

**エジプト**

約 15 万人以上の難民がカイロ都市圏に暮らし、学齢期の子どもの約半数が学校に通っていないと推測されています。難民を受け入れている 8 つのコミュニティの小学校に、トイレと給水設備の改善や衛生トレーニング、難民の子どもたちへの奨学金支給を行っています。

避難民の子どもたちの補習クラス

子どもたちに電話相談について説明

### 虐待される子どもたちを守れ！＊

**パキスタン**

カラチやラホールなどの全国 6 都市で、虐待に関する通報や相談ができる 24 時間無料電話ホットラインを設置して、地域の子どもや女性などを含め約 3 万人を虐待から守る体制を整えます。

タバコ産業に従事する子どもたち

### 「最悪の形態の児童労働」から 7,200 人の子どもたちを守る＊

**インド**

アンドラ・プラデシュ州とオディシャ州で、「最悪の形態の児童労働」に従事させられている 14 歳未満の約 7,200 人の子どもたちの救出、保護に取り組みます。保護後の子どもたちの復学支援や家庭（母親）の経済力の強化と意識啓発、アドボカシー活動を通じて児童労働を予防する環境作りをすすめます。

レンガ作りに従事する子ども

＊マークのついているプロジェクトは、プラン・マンスリー・サポーターでご支援いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/monthly/ をご覧下さい。

注）緊急支援につきましては、6 月 30 日で募集を終了しました





## 緊急支援

### 子どもの保護とケアを目的とした「子どもにやさしいスペース」を 20 カ所に設置

**エクアドル大地震緊急支援**

2016 年 4 月 16 日、エクアドル太平洋沿岸で発生した大地震。死者 660 人以上、負傷者 3 万人以上の被害をもたらしました。プランは地震の被害が最も大きかったマナビ・スール活動地域を中心に、被災した 3,134 世帯に食料と水を、約 6,850 世帯に衛生用品などの物資を支給しました。

※ 2016 年 6 月 13 日時点の数字です。

シェルターにて被災家族に緊急支援物資を配るプラン職員

ドラム演奏会には、「くまモン」も飛び入り参加

### 災害後の子どもの心のケアを支援

**熊本地震緊急支援**

プランは、熊本市や益城町などで、心のケアを中心とする活動を展開。5 月末までに、避難所など 9 カ所で参加型ドラム（ジェンベ）演奏会を開催し、約 1,900 人が参加しました。また、東日本大震災後に心のケア支援を行ってきた心理士による団体「ケア宮城」とともに、災害後の子ども支援に関するワークショップを各地で実施。約 1,100 人が参加しました。

※ 2016 年 6 月 20 日時点の数字です。

## 2016年4月に続けて起こった大地震。熊本・エクアドルで支援を続けています

## 一般プロジェクト

教室が不足しており、外でも授業をしています

### 劣悪な学習環境を整備 ★

**ガーナ北部**

**「小学校建設プロジェクト」**

2 校の児童と教師あわせて約 570 人を対象に、備品を備えた教室とトイレ、給水施設の建設を行います。

### 子どもたちに栄養を！ ★

**インド**

**ラジャスタン／オディシャ州**

**「子どもの栄養状態改善プロジェクト」**

栄養に関する知識の普及をはかり子どもの栄養不良を防ぐとともに、重度の栄養不良児の栄養改善をすすめます。

※本プロジェクトは、外務省（NGO 連携無償資金協力）との協力により実施します

子どもたちの健康チェック

故障したまま放置されている給水設備

### 子どもたちに清潔な水を！ ★

**バングラデシュ 6 活動地域**

**「学校における水と衛生プロジェクト」**

不衛生な水を原因とする病気から子どもたちを守るため、安全な水の確保を進めるとともに、衛生習慣の普及に取り組みます。

★マークのついている 2016 年 7 月から新しく始まるプラン一般プロジェクトについては、P15 のインフォメーションとあわせて、同封チラシをご覧ください。

現地報告　カンボジア　幼稚園建設

# 幼稚園建設を支援してくださった企業の方々と落成式に出席しました！

鈴村久美子職員（ファンドレイジング部）

From Cambodia

カンボジアのスタッフとともに（左）

プランでは、途上国支援を推進する企業との連携にも力を入れています。今回は、カンボジアの幼稚園建設を支援してくださった企業の代表の方に同行し、現地の落成式に出席してきました。

学校では子どもたちの素敵な歓迎が待っていました！

幼稚園等で就学前のケアと教育を行うと、小学校入学後の教育に非常に高い効果があると言われます。今回の支援によって、小学校の敷地内に幼稚園が建設されました。

当日、学校に到着すると、子どもたちの手作りの首飾りと歌の歓迎を受け、彼らの溢れる笑顔に、訪問された方も終始笑顔。教師からは支援への謝意とともに、今後は子どもたちを学校に通わせるよう保護者に伝えていくこと、また、校舎は責任をもって自分たちが維持管理をしていくとの強い宣言がありました。プロジェクトがしっかりと地域の人のものとなって受け継がれたことを感じた瞬間でした。

落成式の後、訪問された方からは、「従業員の自主的な活動として、社内でカンボジアへの新たな支援を呼びかけます」とのうれしいご提案もいただきました。現地訪問を機に、カンボジアの子どもたちの明るい未来のためのさらなる取り組みが広がりそうです。担当した私にとっても、非常に意義のある出張となりました。

現地報告　インドネシア　若い女性の就労支援プロジェクト

# 就労支援もスマホで！IT化の波に驚きました

道山恵美職員（プログラム部）

From Indonesia

プロジェクト参加者と記念撮影（前列右）

現在インドネシアで行われている、17～29歳の困難な状況に置かれた若者（主に女性）を対象とした「就労支援プロジェクト」。そのサポートのため、今年の1月から3月まで、現地に出張してきました。

出張中、もっとも驚いたのは、スマートフォンを使いこなす人が多いこと。事業のパートナーやプロジェクトに参加する若者たちとの主な連絡手段もSNS。私より年上の現地スタッフも、スマートフォンのアプリを駆使して日々の業務を行っていました。

求人情報もネットで、というのが普通になりつつあるインドネシア。効果的に若者たちの就職支援をするためには、私たちもIT化の波に乗らなければ！と痛感させられた出張でした。

## プランの重要なパートナーであるユースが結集！

プラン・インターナショナルの事業には、子どもたちやユース（若者）が積極的に参加し、同世代を対象としたワークショップを開催したり、事務局の方針を決める際にユースの意見を取り入れたりしています。今年4月10日には、東京でユース・オリエンテーションを開催。プランに関わるユースが一堂に会し、他の国のユースの活動状況の共有や、ユース同士の連携について意見交換を行いました。今後の活動にご期待ください！





# 短期間に結果が出て、自分の関わりが形として残るのが魅力

退職を機に、プラン特別プロジェクトで初めてプランと関わってくださった、深堀秀治さんにお話をうかがいました。

記念プレート。“この分娩施設は、日本の深堀秀治さんの支援で作られました”

## 「プラン」との出合いはネットで調べたことでした

仕事で東南アジアやアフリカと関わった経験から、途上国支援、中でも子どもたちへの教育支援の重要性を常に感じていました。60歳で定年退職したとき、「短期間に結果が出て、自分が関わったことが形として残る支援の方法はないだろうか？」と考えました。そしてネットで見つけたのが、プラン・ジャパン（当時）でした。その中にプラン特別プロジェクトがあって興味を持ち、事務局で開かれる説明会に参加。すると、私の希望にも沿っていて、結構納得できる内容だったので、支援を検討することにしたのです。

特別プロジェクトは100万単位の支援なので、さすがに最初はかなり慎重でした。プランのことは、何も知りませんでしたし。でも事務局を実際に訪れてみて、組織としてきちんと機能しているとの印象を受けました。プロジェクトの企画書も、非常にきっちりしていると感じました。まあ、最後は清水の舞台から飛び降りるような気持ちでしたけど（笑）。

## プランと一緒に作り上げた「母子保健」プロジェクト

私が最初に支援したプロジェクトは、「ネパールにおける母子保健プロジェクト」でした。最初は子どもの教育関係を希望したのですが、このプロジェクトの企画書を読んで、〝そうか、教育を受ける前に、まずちゃんと生まれて、健康に育つことが大切だよな〟と思い、決断しました。

治安の問題などがあり、残念ながら現地訪問はできなかったのですが、妊産婦・新生児の死亡率低下など、すでに大きな成果が出ていると聞いています。詳細なプロジェクト報告と写真、現地の方々の声などが記載された『完了報告書』も送られてきて、それを読んでいたら、自分の心の中が若返ったように温かな気持ちになりました。

プランのプロジェクトは、ハード面と同時に現地の人たちのトレーニングも行い、それが継続性につながっているところが素晴らしいと思います。私にできることは限られていますが、今後もできる限りの支援を続けていきたいと思っています。

深堀秀治さん

### 深堀さんのプラン特別プロジェクト

**プロジェクト名**
ネパールにおける母子保健プロジェクト

**実施期間**
2013年3月～2014年2月

**内容**
ラウタハット郡で分娩室を新設・修繕、医療機器・備品を支給、診療所の運営委員会メンバー・助産師をトレーニング

**主な活動結果**
4つの診療所に分娩室を新設、15の診療所に医療機器・備品を支給、計366人にトレーニングを実施、など

### 「プラン特別プロジェクト」とは？

- ひとつのプロジェクトを、ひとりもしくは複数の個人や企業で「丸ごと」支援していただけます
- 支援者のご要望と活動国のニーズをすり合わせ、プロジェクトの内容を一緒に作り上げます
- 支援者には、個別の提案書と完了報告書をお送りします
- プロジェクトの成果物に、支援者の名前入り記念プレートを設置します
- プロジェクトの完了に合わせて、落成式などの記念イベントにご参加いただけます

（渡航に関わる実費は、支援者のご負担となります）

（右）衛生的かつ安全に出産できるようになりました（左）イスも一脚ずつすべて深堀さんの名前入り！ ネパールの人々の几帳面さがうかがえます

● プラン特別プロジェクトにご関心のある方、お気軽にお問い合わせください。
連絡先・ファンドレイジング部 TEL: 03-5481-7100 ／ Mail: hello@plan-international.jp

## プラン一般プロジェクトの新規プロジェクトがスタートします！

7月より、新しいプラン一般プロジェクトがスタートします。今回は、以下の3プロジェクトが実施されます。

■ガーナ「小学校建設プロジェクト」

子どもたちが安全に学べる環境を作るためのプロジェクトです。北部タタレサングリ県で、耐久性のある頑丈な教室や、清潔なトイレを建設し、イスや教室の備品等を支給します。2校、約570人を対象に実施。

■インド「子どもの栄養状態改善プロジェクト」

重度の栄養不良から、乳幼児の命を救うためのプロジェクトです。北部ラジャスタン州で、育児指導、給食の提供、乳幼児への微量栄養素の支給などを実施。また、乳幼児の保健栄養サービス施設を整備し、施設職員や地域住民の能力強化を図ります。

■バングラデシュ「学校における水と衛生プロジェクト」

安全な水や衛生施設で、子どもたちの健康を守るプロジェクトです。北部ニルファマリ県で、24校のトイレ・給水設備を改善。同時に、衛生習慣に関するトレーニングを行います。児童や教師、関係者約9,600人を巻き込み、子どもたちの健康改善を目指していきます。

※プラン一般プロジェクトは、同封のチラシでご寄付いただけます。詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://www.plan-international.jp/join/priority/

【お問い合わせ先】
ファンドレイジング部
TEL：03-5481-7100
FAX：03-5481-6200
Mail：hello@plan-international.jp

ガーナ「小学校建設プロジェクト」。新たな校舎を建設します

インド「子どもの栄養状態改善プロジェクト」では家庭訪問も実施します

あなたも参加しませんか？

## プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

### 山形・秋田プランの会

**第26回山形・秋田プランの会**

■日時：7月10日（日）　13時～16時30分
■会場：サンパル秋田（秋田市山王7-3-1 秋田文化会館内）
■内容：プランのハイチに赴任中の林職員による活動報告、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
■参加費：500円
下記へお申し込みください。
■連絡先：岩谷
Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

### プラン広島の会 f

**お手紙書き会**

■日時：7月16日（土）、8月20日（土）、9月17日（土）、10月15日（土）、11月19日（土）14時～16時
■会場：広島市まちづくり市民交流プラザ3Fまたは2Fフリースペース（広島市中区袋町6-36）
■内容：チャイルドへの手紙書き
■参加費：無料、事前申込不要
■連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

### プラン長岡近郊の会

**市民活動フェスティバル出展**

■日時：9月3日（土）
■会場：アオーレ長岡
■内容：市民活動フェスティバルで、プランの活動をPRします。
※①9時～12時30分、②12時～15時30分、③10時～15時のいずれかの時間帯で、一緒にお手伝いしてくださるスタッフを募集しています。
■連絡先：熊倉
Mail：n-kumakura@nifty.com

### プラン千葉 W

**第15回秋の例会**

■日時：10月16日（日）　13時15分～16時
■会場：千葉市民会館　会議室（千葉市中央区要町1-1）JR千葉駅から徒歩7分
■内容：チャイルドへの手紙書き
■参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員は一人500円
■人数：先着30名
※参加ご希望の方は、10月14日（金）までに下記へご連絡ください。事前に関連資料（当日持参していただくもの等）をお送りします。
■連絡先：前田
Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

W ウェブサイト f フェイスブック
上記アイコンのある会については、プランのウェブサイトから各会のページにリンクできます
http://www.plan-international.jp/supporter/plankai
支援者の会に関するお問い合わせ先：
支援者サポート部　TEL：03-5481-6100

※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください　※「プラン・ニュース」No.103は、2016年10月上旬にお届け予定です

## 「夏休み読書感想文コンクール2016 ～私を動かす、この一冊。」作品募集

プランが主催する夏休み読書感想文コンクールも、今年で3年目を迎えます。今回は、Because I am a Girlキャンペーンに関連した新たな書籍も課題図書に加え、中学生・高校生が途上国の女の子の課題とパワーを知り、自分に何ができるかを考える企画として実施します。

応募作品のなかから、中学生・高校生各3名を「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として、また100作品以上の応募のあった学校は「学校賞」として表彰します。入賞者は2016年11月20日（世界子どもの日）に発表。角田光代審査員長の講評とともに表彰します。

ご家族、知人、学校の先生などにもぜひお知らせください。多くの方のご参加をお待ちしています。

【募集期間】
6月22日（水）～ 9月12日（月）（必着）
【内容】
課題図書（ウェブサイト参照）のなかから1冊を選び、1,200字以内で感想文を執筆してください。課題図書は、『砂漠の女ディリー』（草思社文庫）、『わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。未来をうばわれる2億人の女の子たち』（合同出版）などです。
【審査員長】
角田光代氏
（直木賞作家／プラン支援者）
【応募方法】
ウェブサイトより応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、作品と一緒に下記まで郵送してください。
【お問い合わせ・送付先】
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-11F

日本の中高生の声を発信しよう！

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　コミュニケーション部
「読書感想文コンクール2016」係
TEL：03-5481-0030
Mail：education@plan-international.jp
ウェブサイト：
http://www.plan-international.jp
※詳細は同封のチラシをご覧ください。

## "東京マラソン2017" チャリティに参加しませんか？

東京マラソン 2016 チャリティランナー
© 東京マラソン財団

プランは、前年度に引き続き、東京マラソン2017チャリティ事業の寄付先団体となりました。このチャリティへのご寄付により、インドでカースト制度により差別を受けている、貧困世帯の女の子に奨学金を贈るプロジェクトを実施します。10万円以上のご寄付をしていただいた方は、希望されれば東京マラソン2017にチャリティランナーとして参加することができます。東京マラソン2017チャリティ公式ウェブサイトから、ぜひお申し込みください！

【お問い合わせ・お申し込み先】
東京マラソン2017チャリティ公式ウェブサイト：http://www.runwithheart.jp

### プランへの寄付となる商品のご紹介

**株式会社ポーラの「ホワイトショットRX」**

「世界中の人々に笑顔と感動をお届けする」ことを企業理念としてかかげて、2014年1月より、売り上げの一部をBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーンに寄付してくださっている株式会社ポーラ。社会貢献活動においても、世界中に笑顔をもたらすことを目指しています。創業以来87年、かたくなに"美白道"を貫いてきた同社は、2016年7月、美白新商品「ホワイトショットRX」を発売。BIAAGキャンペーンの寄付つき商品のラインナップにも加わります。ホワイトショットの商品情報等については、以下の公式ウェブサイトをご覧ください。
http://www.pola.co.jp/special/whiteshot/

コミュニティ訪問に行ってきました！

ホンジュラス共和国 **HONDURAS**

# 友人とふたりで「来てよかったね〜！」と何度も繰り返していました。

スポンサー：清村美子さん／神奈川県（前列右）
チャイルド：ヘリンちゃん（女の子／訪問時 3 歳）

亡くなったご主人の遺志を継ぐ形で、スポンサー活動を始めた清村さん。
50歳の誕生日から習い始めたスペイン語のクラスメートとふたりで、
中米ホンジュラスのチャイルドに会いに行ったのですが――。
実はそこは、世界屈指の危険地帯!?　さて、どんな旅だったのでしょう？

心身ともに大変だった夫の事業整理がやっと片付いた昨年末、もうひとつ夫から受け継いだプランのスポンサーシップにもある種の“区切り”をつけ、あとは自由に羽ばたこう！と思って計画したコミュニティ訪問。旅の玄関口となるホンジュラスのサン・ペドロ・スーラは、「世界屈指の危険地域」「殺人・麻薬・誘拐の巣窟」など恐ろしい情報が次々と出てくる場所。一時はかなり悩みましたが、若き友人が同行してくれるし、プランの方々も万全のサポート体制を整えてくださいましたので、思い切って出かけることにしました。

現地ではプランのスタッフが空港まで迎えに来てださり、そのまま車で、チャイルドが暮らすコミュニティ近くのサンタ・ロサ・デ・コパンへ。そこは静かで安全なかわいらしい町でした。

翌朝はプランの事務所で説明を受け、最初に地域の小学校を訪問。そこには約 150 人の生徒や先生、村人や市長さんまで集まり、音楽と拍手、そして子どもたちが小旗を振っての大歓迎！　まるで皇后・美智子さまにでもなったような気持ちになりました。チャイルドのヘリンちゃんもお母さん、お兄ちゃんと一緒に来ていて、あいさつのキスを交わして感動の対面。一緒に子どもたちの踊りを見たり、私と友人が日本の歌をスペイン語で披露したりして楽しく過ごしました。

その後はヘリンちゃんが通う幼稚園を訪れ、ヘリンちゃんの家でランチタイム。お父さんが出稼ぎに行っていて、その仕送りで建てたばかりだというお家は、清潔感があってとっても素敵。トルティーヤやチキンと野菜の煮込みなどの手料理をいただき、ヘリンちゃんに家の中や庭を案内してもらいながら、「ここは誰のお部屋？」「これは何？」などとスペイン語でおしゃべりもして、あっという間に 2 時間以上が過ぎていました。最後に T シャツ、私が作ったワンピースなどをプレゼントし、ヘリンちゃんとハグしてお別れ。さらに小学校をもう一校訪問し、ホテルへと戻りました。

訪問が無事終わってホッとしたのか、その日の夜中から急に咳と悪寒に襲われてダウン――というアクシデントもありましたが、生活が少しずつ向上しているヘリンちゃんたちの様子を見て、心の底から安心しました。帰路では友人とふたり、大きな達成感と満足感に包まれて、お互いに何度も何度も「来てよかったね〜」「ほんと、大成功だったね〜」と自画自賛（？）。今は、何年か後、私がまだ元気だったら、もう一度ヘリンちゃんに会いに行こうと思っています。そしてスポンサーとしての寄付額も、少しではありますが増額することにしました！

大歓迎を受けた小学校のひな壇で

## 旅のスケジュール

| | | |
|---|---|---|
| 2016年 | 2/14 | 成田国際空港〜メキシコシティ（移動時間：約 14 時間）<br>※現地友人宅で時差調整 |
| | 2/16 | メキシコシティ〜サン・ペドロ・スーラ〜サンタ・ロサ・デ・コパン |
| | 2/17 | コミュニティ訪問 |
| | 2/19 | サンタ・ロサ・デ・コパン〜サン・ペドロ・スーラ |
| | 2/20 | サン・ペドロ・スーラ〜メキシコシティ　※友人宅に滞在 |
| | 3/6 〜 | メキシコシティ〜成田国際空港（移動時間：約 15 時間） |

● コミュニティ訪問は、出発日の 8 週間前までにお申し込みください。
手続き方法などの詳細は、ウェブサイトでご覧いただけます→ http://www.plan-international.jp/supporter/visit

PLAN NEWS
2016 SUMMER NO.102

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒 154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：エジプトのプラン支援校で学ぶシリア難民の女の子